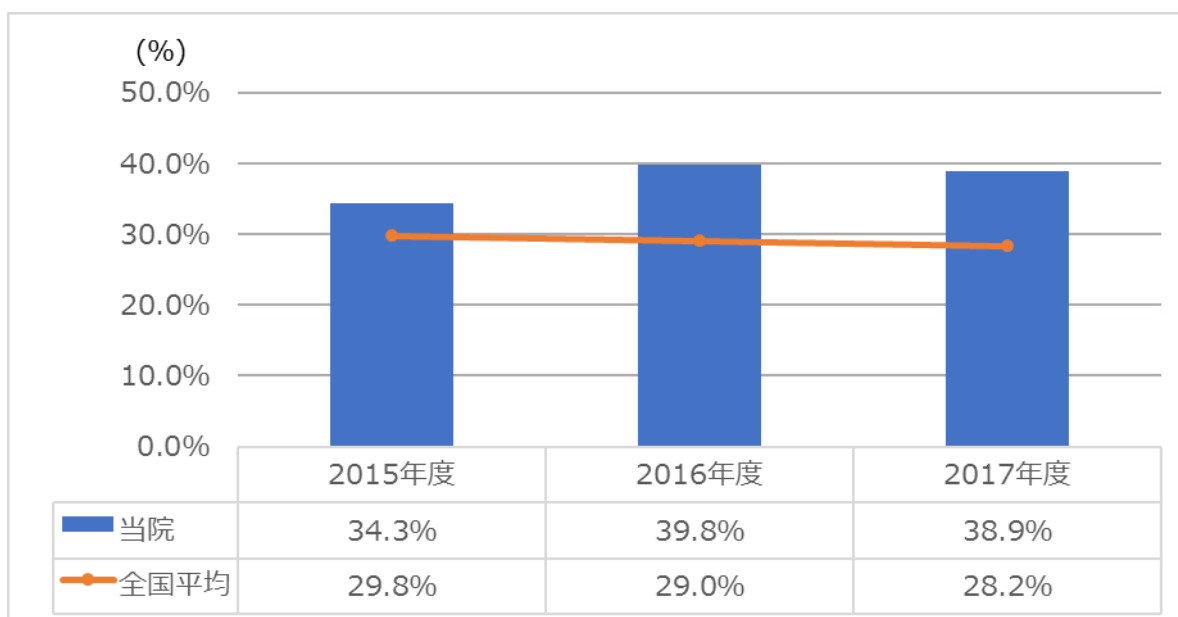


指標 19 がんの疼痛管理のため、定量的疼痛評価を受けた症例の割合



<定義>

分子	分母のうち、定量的疼痛評価を受けた症例
分母	18歳以上の、がんの診断を受け、麻薬を処方された症例
期間	2015年度～2017年度（1年毎に集計）
対象	上記期間の退院患者
値の解釈	高い方が望ましい

<解説>

がんの適切な疼痛緩和のためには、定量的評価による適切な薬剤の処方計画・疼痛看護が重要です。

※ 本データは厚生労働省提出用のDPCデータを基に作成されています。また、全国平均の値については、当院が参加している「医療の質と経済性に関する実態調査【京都大学大学院QIP事業】」における「医療の質の指標」の計測結果（事業に参加する全国の病院の平均値）を用いています。

【参考URL】

<http://www.kch.kagoshima.jp/about/qip.html>（当院のQIP参加について）

<http://med-econ.umin.ac.jp/QIP/CI.html>（QIPにおける計測結果）